5. 指導過程

段階	学習活動・内容	時間	教師の主な発問	教育目標との関連	指導上の留意点
導入	1. 公平公正な態度がとれなかった事例について話し合う。	5分	◦このことについて，問題だなと思うことはどんなことでしょう。		◦公平公正な態度をとれなかった事例について話し合うことによって，問題を意識させ価値へと方向つける。
展開	2. 資料「ぼくは後悔しないを読んで話し合う。	25分			◦録音された資料にそって一度読ませた後にもう一度黙読させ，内容をしっかりととらえさせる
	(1) 三郎の迷う気持ちについて考える。		◦議題を決めようとしている時三郎はなぜ迷ったのでしょうか。		◦ボールの議題を取り上げたいと思っているが，友達の正夫のことを考えて心を決められないでいる三郎の気持ちや立場をとらえさせる。 ○三郎の気持ちや立場を十分とらえたか。
	(2) 迷いながらもボールの議題を取り上げた三郎の気持ちについて考える。		◎ 三郎が正夫のことで迷いながらもボールの議題を取り上げようとしたのは，どんなことを考えたからでしょうか。	1. 自ら考えくふうする子ども （しっかりした根拠で自分の考えを組み立てることができる。）	◦正夫のことを考えて悩みながらも勇気を持って公正な判断を下そうとしている三郎の気持ちを十分に堀り下げて考えさせるようにする。 ○一人ひとりの児童が，三郎の気持ちや立場を十分掘り下げて考えていたか
	(3) ボールの議題に決まってからの三郎の気持ちについて考える。		◦ボールの議題に決まってから三郎はどんなことを考えていたでしょうか。		◦正しいことをしたのだと自分に言い聞かせながらも，正夫の心を思って割り切れないでいる三郎の気持ちをとらえさせる。
	(4) 正夫の抗議に答えた時の三郎の気持ちについて考える。		◦三郎はどんな気持ちで正夫の抗議に答えたのでしょうか。	2. 思いやりがありみんなと協力できる子ども （互いの立場や気持ちを尊重し力を合せて助けあう）	◦三郎が正夫の抗議に対しても自分の考えをくずさず，最後まで公平公正な態度をつらぬき通そうとしていることをとらえさせる。
	3. 自分の行動をふり返り，考えたことについて発表しあう。	12分	◦これまでに，公平にしなければいけないのにできなかったことはありませんか。また，そのことについてどう思いますか。	1. 自ら考えくふうする子ども （しっかりした根拠で自分の考えを組み立てることができる。）	◦具体的な生活場面での行動を思い起こさせ，公平公正な態度に対する考えを深めさせる。 ◦ノートを使用させることによって自分の考えをまとめやすくさせる。 ◦自分の今までの行動や考えをもとに本時の学習を通して，今後の自分のなすべき行動について明確にしたか ◦公平にできたことについての話を聞かせることにより，意欲づけを図る。
終末	4. 教師の話を聞く。				

(4) むすび

道徳の指導内容には，教育目標の内容との関連が深いものが多いために，実際の授業でも，特別に教育目標との関連を意識しなくとも，結果的には目標達成が図られるという考えが多い。しかし何となくかかわりがあるという安易な考え方では目標を具体的に実現することにはならない。

道徳の授業に具体化するためには，この実践例のように①～④の各段階を踏んだ具体化への道すじを明確にすることが大切であろう。特に，実際の学習指導案の中にどのように位置づけるかを十分に吟味する必要があろう。この実践例では，主題設定の理由，とりあげる資料，本時のねらい，指導過程等の中に教育目標との関連が図られており，これまでの授業実践よりは具現化への道すじがより具体的になったように思われる。今後は更に次のような事項についての検討が必要ではなかろうか。

◦ 教育目標の実践内容と道徳の指導内容との関連を明確にし各学年ごとに具体化する。

◦ 指導過程の途中及び事後の評価（目標達成）について吟味する。